



小児外科



診療科の特色

小児の外科の病気は成人の病気とは全く異なります（たとえば胃がんや大腸がんは小児にはありません）。小児にしかない特殊な病気も多く、また、小児の体は成人のそれとは異なり発育・発達の途中にあるため臓器の機能が未熟です。したがって、小児の手術は小児の外科疾患と小児の特殊性についての専門知識を持ち、専門のトレーニングを受けた小児外科医が行うことが望ましいと思われます。当科では日本小児外科学会認定の小児外科専門医・指導医が診療に当たります。

当科の特徴

1. 患者の年齢：0歳から15歳まで（新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期）の外科疾患を扱います。
2. 対象となる疾患：小児外科の扱う疾患は骨・脳・心臓以外のほとんどの臓器の疾患を扱いますが、当院では特に臍ヘルニア、鼠径ヘルニア、停留精巣、虫垂炎などの日常的な疾患をはじめ様々な疾患を中心に扱います。
 - (1) 臍ヘルニアに対しては整容性と早期治癒を考慮して乳児期早期から圧迫療法を実施しております。
 - (2) 鼠径ヘルニアに対しては臍の傷だけの単孔式腹腔鏡手術を行っております。
 - (3) 虫垂炎も可能な限り、臍の傷だけの単孔式腹腔鏡手術を行っております。
3. 安心の学会技術認定医による内視鏡手術：全国で数少ない小児外科領域の日本内視鏡外科学会技術認定取得医（2021年3月時点で全国に41名認定）が対応いたします。
4. 小児科・成人外科との協力体制：小児を扱う以上小児のことがわかっている小児科の先生方との連携は大事であり、また、成人外科との技術的な協力体制も整っています。小児から成人へ成長する過程の様々な外科疾患に対応できる体制が整っています。
5. 近隣の小児専門施設との連携：集中治療や特殊な治療を必要とする患者に関しては連携した近隣の小児専門施設に紹介する体制もできています。

実績情報

年間50例以上の小児外科疾患手術を施行しており、日本小児外科学会の認定施設（教育関連施設B）となっています。

昨年度総括

コロナ禍の影響で年間を通して小児の外来受診控えや手術の延期が相次いだ中、鼠径ヘルニア、停留精巣、虫垂炎などの手術を中心に年間55例の手術を施行し日本小児外科学会の施設認定（教育関連施設B）の資格更新をしました。

今年度の取組（診療体制）

当院外科医師の協力のもとに主に小児外科専門医、指導医の医師1名で診療にあたっています。担当医師は医師同士の投票により信頼される医師として選ばれるBest Doctors in Japan(2016-2021)に毎年選出されています。保護者の方にも安心して受診していただけるものと考えております。



小児外科



医師紹介



医長

小室 広昭 (こむろ ひろあき)

[取得資格等]

- ・日本小児外科学会 専門医・指導医
- ・日本小児泌尿器科学会 認定医
- ・日本内視鏡外科学会 技術認定取得 (小児外科領域)
- ・日本周産期・新生児医学会 認定外科医
- ・日本外科学会 専門医・指導医
- ・日本小児血液・がん学会 小児がん認定外科医
- ・日本移植学会 移植認定医
- ・日本再生医療学会 再生医療認定医
- ・厚生労働省 臨床研修指導医
医師の臨床研修に係る指導医講習会修了

外来担当医表

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
小児外科	午前						
	午後		小室		小室		

ご依頼・お問い合わせ

病診連携係へのご連絡 予約直通 **048-773-5941**
当日緊急受診相談 **048-612-1444**

〈病診連携係対応時間〉 平日8:30 ~17:30 / 土曜日8:30~13:00